

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

「情報から始まるがん相談支援（情報支援）」研修の地域展開に向けた検討：
フィジビリティについての関係者へのインタビュー調査
～情報支援研修の地域展開トライアルのプロセスと今後の展開について～

研究分担者 八巻 知香子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（室長）
研究協力者 清水 奈緒美 湘南医療大学 保健医療学部看護学科（准教授）

研究要旨

2021年度の研究班の取り組みとして「情報支援研修」の地域展開版のプログラムを作成し、トライアルとして実施した。この結果について、そのトライアルのプロセスと今後の展開について明らかにする目的でインタビュー調査を行った。調査の結果、トライアルのプロセスが明らかになり、今後の展開への課題について次の5点が示唆された。1) WEB運営が可能な体制を整備すること、2) 地域開催の単位について、県単位、ブロック単位といった柔軟な開催とすること、3) 研修目標の達成に向けて、繰り返し開催、モジュールごとの開催など柔軟な運用とすること、4) 研修運営方法について、事前準備のプログラムを作成すること、5) NCCが共催等の形で関与することである。

A. 研究目的

医療技術や情報端末が進歩し、患者の療養生活が多様化する中で、がん相談支援センターには患者・家族が抱く治療上の疑問や、精神的・心理社会的な悩みに対応していくことが求められている。また、がんに関する情報があふれる中で、相談者の情報リテラシーを把握し、患者・家族が納得できる意思決定を支えるための情報支援が一層求められている。

がん専門相談員の情報支援の力を高める研修は、従来から国立がん研究センターがん対策情報センター主催の研修の一環として年1回開催されてきたところである。しかし、研修受講者数には限界がある。そこで、受講者数を増やし、がん専門相談員の対応力を向上させていくことを目的とした取り組みが必要とされている。そこで、2021年度の研究班の取り組みとして「情報支援研修」の地域展開版のプログラムを作成し、トライアルとして実施した。

本編では、実施後の関係者へのインタビューから、「情報支援研修」地域展開トライアルのプロセスと今後の課題を明らかにする。

B. 研究方法

- 対象者：国立がん研究センターがん対策研究所（NCC）運営担当者5名、地域開催協力者3名、チーフファシリテーター1名。
- 方法：半構成的なフォーカスグループインタビュー。協力者の都合に合わせて、3回のフォーカスグループインタビューを行った。1回目はNCC関

係者3名、2回目は地域開催協力者3名（ファシリテーターの役割も担った者）とチーフファシリテーター1名の4名、3回目はNCC関係者2名。

- インタビュー内容：今回の企画で担った役割、ご自身の地域で今後継続して展開していくことを想定したときに考えること、他の地域が展開していくことを想定したときに体験者として考えることを聞き取りながら、参加者の自由な語りを促した。

（倫理面への配慮）

本研究は、患者さんの個人情報などを扱う内容ではなく、特記すべき事項なし。

C. 研究結果

1. 対象者の背景（表1）

国立がん研究センターがん対策研究所の関係者、地域開催協力者、チーフファシリテーターは、研究班における分担研究者、研究協力者を全員が兼ねていた。

2. 情報支援研修地域展開トライアルのプロセス

NCC関係者および地域開催協力者が担っていた役割を研修の準備～開催までの時系列に沿って整理し、図1に示した。主なプロセスは以下のとおりである。（ ）内に発言者の立場を示した。

表1 対象者の特性

	人数	本研究班との関係	担っていた役割
国立がん研究センター がん対策研究所	5	研究協力者	<ul style="list-style-type: none"> 研究協力者としてプログラム案の素案の作成と検討への協力 研修会開催の事務局機能
地域開催協力者	3	研究協力者	<ul style="list-style-type: none"> 研究協力者としてプログラム案の作成への協力 研修会についての地域内の調整 研修会当日のファシリテーター
チーフファシリテーター	1	分担研究者	<ul style="list-style-type: none"> 研究協力者としてプログラム案の作成への協力 研修会当日のチーフファシリテーター

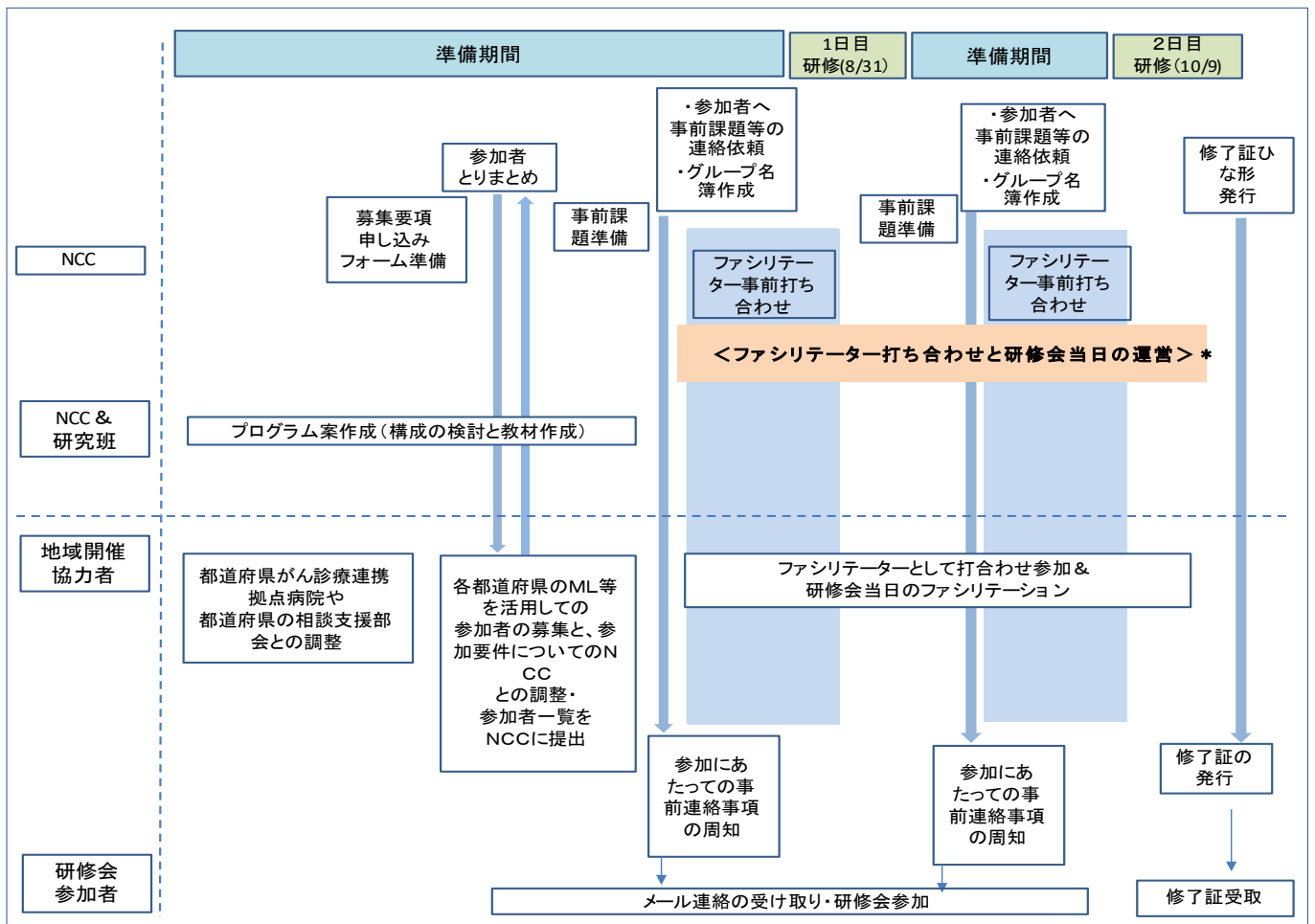


図1 NCC・地域開催協力者・研究班が担っていた役割

1) 研修プログラムの作成に係ること
 NCCで実施してきた「情報支援研修」をベースとして研修内容を研究班で検討し、①対象者の特性を踏まえた研修会にすること、②NCC版の情報支援研修との差別化を考慮してプログラムの修正を行った。具体的な内容は次のとおりである (NCC)。

・研修目標の修正
 対象者が①専従でがん相談支援をしていない、②がん情報サービスにアクセスした経験がない、③患者用の診療ガイドラインをみたことがない人が含まれることを想定して、「がん情報サービスやガイドラインを使って相談対応してみようと思えること」に目標を修正した。

・研修時間の修正

NCCでの「情報支援研修」は5.5時間×2日間であったが、地方展開版については4時間+4.5時間として計画した。

・研修教材の修正

NCCでの「情報支援研修」は、膵がんのケースを取り上げているが、地方展開版は肺がんのケースとした。肺がんは疫学的に多いことと、患者用のガイドラインが活用可能である状況から教材として取り上げた。

2) 地域での開催に係る調整

地域開催協力者は、各地域で都道府県拠点病院や都道府県の相談支援部会との事前調整を行った。(地域開催協力者)

3) 研修会開催要綱の作成や参加者受付等

・今回の主催は研究班、共催はがん対策研究所がん情報提供部としたので、開催要綱作成やがん専門相談員研修Ⅲ群研修の手続きはNCCで実施した。(NCC)

・参加申し込みのフォーマットを各地域開催協力者へエクセルの形で送信し、各地域での参加申し込み者のデータを入力し、送信してもらう形で申し込みを受け付けた。(NCC)

4) ファシリテーター事前ミーティング

・ファシリテーター事前ミーティング(各研修会前3時間ずつ)のzoomのセッティング等の準備はNCCで行った。(NCC)

・情報支援についてファシリテーターは共通の認識をもっている必要がある。(NCC)

・ファシリテーターミーティングは、各研修会の前に演習を体験する形で開催し、イメージができて効果的だった。(地域開催協力者)

5) 当日の運営

・当日の運営は、WEBホスト、サブホスト、講師対応、電話対応などを考えると5人は必要で、実際、今回の対応は5人体制であった。(NCC)

・演習の進行についてファシリテーターマニュアルがあったこと等で、研修の進行・運営が助けられた。(地域開催協力者)

2. 今回のトライアルの結果、出された今後の課題や方向性

1) プログラムに関すること

・今回作成したプログラムで当面運営できるとすれば、次回以降はプログラム作成に関する労力は考慮する必要はないかもしれない。(NCC)

2) 申し込み受付に関すること

・メールアドレスの間違いなどがあり、受講決定通知の送信に手間取ったので、エクセル形式の申し込みフォームではなく、通常の研修申し込みフォームを使うなど検討する必要があるかもしれない。(NCC)

・申し込みフォームがあったことで、地域としては助けられた。(地域開催協力者)

3) グループ編成に関すること

・グループ編成をNCCで行ったが、参加者の個別背景の情報をもたないので、あとでグループメンバーの修正を要した。(NCC)

4) ファシリテーター・チーフファシリテーターに関すること

・普段の業務の中で情報支援を必要とするがん相談に対応した経験がない、またはとても少ないという研修参加者を対象にファシリテートすることを考えると、ファシリテーターとなる人は、「NCC版の情報支援研修を修了している人」「基礎Ⅲ研修のファシリテーター経験者」など一定の研修を終えた人が望ましい。(NCC)

・ファシリテーターの役割のハードルを上げないで「この内容を、“とりあえず”みんなまとめようね”くらいじゃないと最初は難しいと思う。(地域開催協力者)

・ファシリテーターを経験する中で学びを深めていくということもある。(地域開催協力者)

・次世代を育てる意味で、自県のファシリテーターは自県で担えるようにしたい。次世代のファシリテーターのデビューの場は、自県で果たさせてあげたい。(地域開催協力者)

・指導者研修を修了していれば、ファシリテーターを担当してもよいと思う。(地域開催協力者)

・ファシリテーターの確保という点では、ブロック単位の開催が現実的かもしれない。(NCC)

・今回行ったようなファシリテーターの事前打ち合わせ(実際に演習を体験する形)を行うことは必要と思われる。(NCC)

・チーフファシリテーター、ファシリテーターは、必要なら他の地域から出張してもらっての運営という選択肢もあるとよい。(NCC)

・チーフファシリテーターは、事前ミーティングで他のファシリテーターと方向性や目標、進行を打ち合わせができると効果的な進行が可能である。(地域開催協力者)

・チーフファシリテーターは大変そうだが、ファシリテーターとの模擬演習を含めた事前打ち合わせがあれば可能だと思う。(地域開催協力者)

5) 当日の運営に関すること

・WEB運営に関する当日の参加者対応は、参加者の5%ほど(今回電話で対応した人は3人/参加者約60人)であった。(NCC)

・プログラム上、講義と演習が細かく切り替える必要があり、それぞれの時間設定も異なり、進行によっては時間設定を変更する必要があるので、WEBのメインホストをだれが担うかが研修開催の実現には大きな課題になると思う。特に2日目は、画面共有と音声再生などの頻度が多い。時間がタイトなので、スムーズに行く必要もある。(NCC)

・受講生がWEB研修に慣れていない方もおられて、名前の表示の仕方がわからない、自分のグループがわからないなどへ対応をする必要だった。(NCC)

・メインホストの場合には2人は同時にいる必要がある。たとえば、音声がかかえていない、というのもそばで聞いてくれている人がいないとわからない。(NCC)

・WEBの器材もよいものを用意しないと音声が入らないなどのトラブルを生じやすい。(NCC)

・ホスト、サブホストは、一つひとつの作業は複雑ではなく、覚えればできるものだと思うが、研修の内容が分からないと運営は難しい。(NCC)

・チーフファシリテーターが、今回はそばで時間を指示してくれたが、そういうことも必要である。(NCC)

・ホスト、サブホストは、ファシリテーターミーティングと研修会本番と両方の運営をする必要がある。(NCC)

6) 各地域における他の研修プログラムとの関係

・すでにQA研修を地域で行っており、情報支援研修を地域行うことになると、年間に2つ全国共通のプログラムを地域で行うことになり、各県が独自に企画する研修の回数を減らすことにはなるだろうが、それは歓迎されると思う。(地域開催協力者)

7) 地域開催にあたっての地域における調整

・地域においては都道府県拠点病院および各都道府県の相談支援部会と合意形成しながら研修の開催を準備していく必要がある。(地域開催協力者)

・ブロックなど都道府県を超えた単位での開催は、運営労力の省力化という点と、ファシリテーターなどの人材確保という点で利点がある。(地域開催協力者)

8) 今後の方針について

・研修のゴール、ハードルを上げないで繰り返し開催していくのがよい。(地域開催協力者)

・研修内容をコンパクトにして、モジュールごとの分割開催などを選択肢にして繰り返し開催することを考えたい。(地域開催協力者)

・オンラインで行うことによって、遠方の都道府県と共催が可能になったり、県内の交通の便が悪い地域の参加が可能になったりするメリットがある。県単位であれば、集合研修の方が参加率の高い地域もある。(地域開催協力者)

・NCCの関与があると重みが増し、開催しやすさがある。(地域開催協力者)

・開催の事務手続きについてNCCのサポートがあ

ることで、病院の事務に相談先ができ、研修会へより協力的であったので、NCCの事務的なサポートはありがたい。（地域開催協力者）

・研修の教材を変えながら繰り返し開催することが望ましい。（地域開催協力者）

・今回と同様の役割をNCCが担うことには限界があり、地域でどの程度Web運営ができるかなどの実務レベルの検討が必要と思われる。（NCC）

D. 考察

インタビューの結果、情報支援研修の地域展開トライアルのプロセスと今後の展開についての課題がそれぞれの立場から明らかにされた。立場や経験している事柄の違いから、課題については立場によって異なる意見もあったが、地域展開のプログラムとしては今回作成されたものを活用していくことについて異論はなかった。今回開発されたプログラムを地域で展開していくための今後の課題に注目し考察する。

1) WEB運営について

コロナ禍の状況を踏まえて、当面WEBでの開催が求められることが想定される。また、WEBならではの参加しやすさもあり、WEB開催が可能な環境を整えることが求められる。NCC関係者から語られたWEB運営の実際からは①WEB開催の環境が整っていること、②研修会の進行を理解し、WEB機能を使いこなせる人材があることが必要であることが語られており、今後各地域の準備状況の把握をしながら必要に応じてサポート体制を検討していく必要がある。

2) 地域開催の単位について

地域開催の規模としては、都道府県単位の開催と近県等と共同で開催するブロック単位での開催の選択肢がある。地域の実情は異なるため、状況に合わせ柔軟に企画できることが求められる。

3) 研修目標を達成に向けた柔軟な運用について

結果では、研修参加者の準備状態を踏まえると、研修のゴールやハードルを上げないで、繰り返し開催することが必要であることが指摘された。また、モジュールを分割しての弾力的なプログラム運営を可能にして、地域において情報支援研修を開催しやすくし、研修を根付かせていくような検討が必要であることが示唆された。

4) 研修運営方法について

研修運営方法としては、ファシリテーターの事前ミーティングで模擬演習などをとりいれて準備することで効果的な進行が可能であることが語られ、事前準備のプログラム化の必要性が示された。

5) NCCの関与について

NCCの関与があることで開催を後押しできる可能性が高いことが語られ、共催等の開催形態が求められていることが示唆された。

E. 結論

情報支援研修の地域展開トライアルのプロセスと今後の展開についてインタビュー調査を行ったところ、トライアルのプロセスが明らかになり、今後の展開への課題について次の5点が示唆された。

- 1) WEB運営が可能な体制を整備すること
- 2) 地域開催の単位について、県単位、ブロック単位といった柔軟な開催とすること
- 3) 研修目標の達成に向けて、繰り返し開催、モジュールごとの開催など柔軟な運用とすること
- 4) 研修運営方法について、事前準備のプログラムを作成すること
- 5) NCCが共催等の形で関与すること

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- ・ Yamaki C, Takayama T, Hayakawa M, Wakao F. Users' evaluation of Japan's cancer information services: Process, outcomes, satisfaction, and independence. *BMJ Open Quality*. 10(4): e001635, doi:10.1136/bmjopen-2021-001635. 2021.

2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし